

松嶋夜話 卷之下 7

〔原文〕杭州浄慈寺守一眞禪師掃地曰

〔訓読〕杭州の浄慈寺の守一の眞禪師の掃地の文に曰く

※浄慈寺…中国、杭州の西湖の南岸にある寺。 禅宗五山の第四。歴代の住持としては、雲門宗の円照宗本・大通善本・法真守一や、曹洞宗の天童如浄、臨済宗の北居簡などが知られている。

〔原文〕以此掃地功德回向法界衆生

〔訓読〕此の掃地の功德を以て、法界の衆生に回向す

〔原文〕色塵清浄

〔訓読〕色塵清浄

〔原文〕塵清浄故眼根清浄

〔訓読〕塵清浄の故に、眼根清浄

〔原文〕根清浄故眼識清浄

〔訓読〕根清浄の故に、眼識清浄

〔原文〕聲香味觸法亦復如是

〔訓読〕聲、香、味、觸、法も亦た是の如し

〔原文〕又願一世界清浄乃至盡法界虚空界皆悉清浄

〔訓読〕又願はくは、一世界清浄、乃至盡法界、虚空界、皆悉く清浄

〔原文〕光嚴住持圓覺伽藍清浄覺地

〔訓読〕光嚴、圓覺の伽藍の清浄の覺地に受持す

※光嚴…人名？

〔原文〕永斷習氣浄穢二邊凡聖垢染

〔訓読〕永く習氣、浄穢の二邊、凡聖の垢染を斷じ

〔原文〕一塵不立如是願清浄智亦復清浄

〔訓読〕一塵立たず、是の如く、願は清浄、智も亦た復た清浄

〔原文〕余仗以

〔訓読〕余仗（よ）て以へらく

〔原文〕夫出家兒而掃除於煩惱之優濁

〔訓読〕夫れ出家の兒、煩惱の優濁を掃除し

※「兒」「而」がよくわかりません

〔原文〕降伏於高貢之慢氣

〔訓読〕高貢の慢氣を降伏し

〔原文〕無若念佛念法持戒禮誦之外力於掃地之一事業焉

〔訓読〕念佛念法持戒禮誦の外、掃地の一事業に力むるに若くは無し

〔原文〕所以然者適向道者身心安佚

〔訓読〕然る所以の者、適たま向道する者も、身心安佚なれば

〔原文〕則其志自然流連

〔訓読〕則ち其の志自然に流連す

〔原文〕剛慢者身體困苦則其心終克柔伏

〔訓読〕剛慢なる者、身體困苦すれば、則ち心終に克く柔伏す

〔原文〕是象末輩根機不充

〔訓読〕是れ象末の輩、根機充たず

〔原文〕賢不賢皆係之

〔訓読〕賢、不賢、皆之に係る

〔原文〕見地之不淨

〔訓読〕地の不淨なるを見

〔原文〕欲令無福衆生於勝福田植淨業

〔訓読〕無福の衆生をして勝福田に於いて淨業を植えしむと

〔原文〕自執簞掃地

〔訓読〕自ら簞を執り地を掃く

〔原文〕因之教示掃地之五利曰

〔訓読〕之に因りて、掃地の五利を教示して曰はく

〔原文〕一自心清浄

〔訓読〕一には自心清浄

〔原文〕二令他心清浄

〔訓読〕二には他心をして清浄せしむ

〔原文〕三諸天懽喜

〔訓読〕三には諸天懽喜す

〔原文〕四植端正業

〔訓読〕四には端正の業を植える

〔原文〕五命終當生天上

〔訓読〕五には命終に當に天上に生まれるべし

〔原文〕嗚本朝官寺掃地勤行將不可怠以爲公帖

〔訓読〕嗚、本朝の官寺、掃地勤行、怠るべからずを將つて、以て公帖と爲る

〔原文〕又不宜乎

〔訓読〕又宜しからずや

〔原文〕顧我家國師雲居中興松島瑞巖日

〔訓読〕吾家の國師雲居、松島の瑞巖を中興する日を顧みるに

〔原文〕夜夜或涉月明陰出方丈

〔訓読〕夜夜、或いは月明に涉れば、陰かに方丈を出て

〔原文〕躬自執鬣佛前庭掃佛后園除

〔訓読〕躬自ら鬣を執りて、前庭に掃ひ、佛后園に除く

〔原文〕以懲於三時温飽不涵十指七尺單頭尸位安眠者

〔訓読〕以て三時の温飽、十指を涵（うるお）さず、七尺單頭に尸位安眠する者を懲らしむ

※温飽…あたたかい衣類を着、十分に飲食すること。安逸な生活のたとえ。暖衣飽食。

※尸位…昔、中国で祖先を祭るとき、人が仮に神の位についたところから、大した才能や徳もないのにむなしく地位に就いていること。

〔原文〕然于茲近之有反理者

〔訓読〕然れども于茲（ここ）に之に近こうして理に反する者有り

〔原文〕且今見於一村僧瑟居寺院

〔訓読〕且つ今一村の僧、寺院に瑟居す

〔原文〕墾土掘地

〔訓読〕土を墾（たが）やし地を掘り

〔原文〕昏服田畝栽茄子瓠子

〔訓読〕昏（つと）めて田畝を服し、茄子瓠子を栽へ

〔原文〕早取其縄役于仕丁

〔訓読〕早く其の縄を取りて、仕丁に役めしむ

〔原文〕推入市廛販賣貿易

〔訓読〕推して市廛に入りて、販賣貿易す

〔原文〕積而留於許多貨泉

〔訓読〕積みて許多の貨泉を留む

〔原文〕是非於爲給一人行脚僧一箇乞兒者爲之

〔訓読〕是れ一人の行脚僧、一箇の乞兒なる者に給する爲に非ずして之を爲す

〔原文〕只此殫我私曲

〔訓読〕只此れ我が私曲を殫す

※私曲：不正な手段で自身だけの利益をはかること。利己心があつて正しくないこと。

〔原文〕供給幼徒稚子而如恭公給其母然

〔訓読〕幼徒、稚子に供給して、恭公が其の母に給するが如く然ず

〔原文〕夫恭公給其母也

〔訓読〕夫れ恭公其の母に給するや

〔原文〕是我知其孝義之意

〔訓読〕是れ我其の孝義の意を知る

〔原文〕

〔訓読〕

※羊僧…仏語。愚かな僧侶。また、僧侶が自分のことをへりくだっていうのにも用いる。愚僧。

〔原文〕今羊僧給幼种也

〔訓読〕今羊僧、幼种に給するなり

〔原文〕是我不知其何之意

〔訓読〕是れ我其の何の意を知らず